

藤岡地域包括支援センター 担当

日 時： 令和6年1月17日（水）午後14時15分～14時55分

会 場： 栃木市役所大平総合支所

事例数： 1 ケース

参加者数： 12 名

事例提供者 1 名、サービス提供事業者 2 名、助言者 6 名、
包括職員 2 名、傍聴者 1 名

脊髄小脳変性症により、筋力低下から日常生活が困難になっている70歳女性
〈目標〉1日：転倒しない。

1年：現状を維持し、ひとり暮らしが続けられる。

利用サービス：通所リハビリ・訪問介護・福祉用具レンタル

《生活全般の解決すべき課題》

- 運動失調により、歩行困難や立位保持困難である。• 日常生活に必要な家事が困難になっている。
- 住環境の整備（段差解消）・介護サービスを受けていない時間の見守りが無い。

《助言者からの助言内容》

- 日頃から家族と介護上の問題点、生活状況等の情報を共有し、受診の際に主治医と相談・連携を図り、今後予測される症状、対処法などを確認し、出来る事は継続していく。
- 誤嚥性肺炎のリスクが高くなる為、食事形態の変更を検討し、口腔内の清潔を保持することが重要となる。
- 内服薬の飲み忘れに関して、服薬することで病気の進行を遅らせることが出来ることを伝えていく。
- 歩行困難となった場合には、膝付き、高這い、四つ這い等、歩行以外の移動手段を専門職と相談すると良い。
- 飲み込みが困難な場合、副菜の極刻みは口の中で食材がバラけてしまい、逆に誤嚥の危険がある為、一口大や薄切り、水分はとろみ剤を使用するなどの方法が望ましい。
- 日中一人で過ごすことも多いため、傾聴ボランティアの利用を勧める。



家族や主治医と連携を図り、本人の病状について現状を把握し、今後疾病の進行により予測される身体状況への対応方法を検討する。適切なリハビリにより筋力低下を予防し、本人の希望する外出で気分転換ができるよう支援していく。

☆地域課題（地域に不足、再構築を図りたい支援・サービス等）

- 自ら出向くことの出来ない方が集まれる場や交流する場が必要である。